大正時代のワイルド受容、pp.693-688

概要：
大正時代におけるワイルド受容史を、文献を中心に論じた。これまでほとんど紹介されることのなかった貴志二彦『ワイルドの二重人格』を詳細に論じた。本書はラスキンとワイルドの相違点を指摘したもっとも初期の研究書と言える。また、ワイルド劇上演も大正に入ってからのことで、演出家島村抱月とローシーとの論争は注目に値する。また、日本文学への波動については言及にとどめた。本間久雄のワイルド研究・翻訳についてもさらに考察を加えた。（変型Ｂ５）
本論文は『武蔵野短期大学研究紀要』（第 15 輯、平成 13 年 6 月）よりの転載。（変型Ｂ５）